

くろしお協力隊に聞く



【今月の担当者】
地域おこし協力隊
(農業支援)
うめす ひろみ
梅津 裕美

Q 9月から協力隊に着任した梅津さん。黒潮町で協力隊を志願した理由を教えてください。

A 私はずっと埼玉県の日本一人口密度の高い市に住んでいて、小学生のころから自然の近くに住みたいと考えていました。子育てを終えて、やりたいことをやろうと思い、昨年から移住を考え始めました。「山・川・海があって自然が豊かなところ」、「農業ができるところ」で移住先を探していた時にたまたま移住スカウトサービス「SMOUT(スマウト)」で町の農業支援の地域おこし協力隊募集記事を見つけて「これだ!」と直感し、志願しました。その後はすごくスピーディーに話が進んで、2、3カ月で移住が決まりましたね。

Q 黒潮町の好きなところや、町での暮らしで楽しみにしていることはありますか？

A 音が好きです。朝の鳥の声や夜の虫の声、畑仕事中にニワトリの音がしたり、汽車の音が聞こえたり。私は特に、畑仕事中に風に乗ってどこからか聞こえてくるラジオの音がすごく好きで。今までの生活では聞くことがなかった音ばかりで新鮮です。まだ地元の方と全然お会いできていないので、今後どう出会っていきけるのかが楽しみです。地域のお祭りなども好きなので、秋祭りや盆踊りなどに参加して、地域を味わいたいと思います。



キュウリの手入れをする梅津さん

Q 現在、仕事ではどんなことをしていますか？

A 農事組合法人小川アグリで農作業のお手伝いをしています。現在はビニールハウスでキュウリの手入れや収穫などを行っています。今後は農業の基本をしっかりと覚えて、どんどんできることを増やしていきたいです。

協力隊から一言!

黒潮町の皆さんと仲良くなって、楽しい時間を過ごしたいです。見かけたら気軽にお声がけください。

Kramer's Corner クレームのコーナー



今月のテーマ

文化交流のため、
南半球へ!

今年8月、中学生海外派遣事業の引率者兼通訳者として地球裏側にある島国ニュージーランドに行ってきました。派遣団の10名の生徒はフェアフィールド中学校で1週間留学し、ニュージーランドの生徒と一緒に授業を受け、一緒に遊び、素晴らしい思い出をたくさん作りました。また、山に登ったり、大都市のオークランドを散策したり、マオリの文化や工芸品に触れたりし、ニュージーランドの自然や文化を肌で感じる事ができ、大変充実した旅になりました。

思い出に残ることは数多くありますが、一番感動したところは黒潮町の生徒が向こうの学校で披露したパフォーマンスでした。生徒たちは黒潮町や大方中学校、佐賀中学校を紹介するビデオを英語で発表し、よさこいソーランを踊りました。これまでに最高のパフォーマンスを見せ、ニュージーランドの生徒たちが楽しく手を振り、たくさんの拍手を送ってくれました。よさこいソーランの振り付けを知っているニュージーランドの生徒も席で一緒に踊り、ホールが笑顔と掛け声で溢れました。そしてその後、フェアフィールドの生徒がハカや歌を練習する時、黒潮の生徒もわくわくしながら参加しました。

子どもたちがこのように交流しているのを見て、留学は人をより良く変えることに改めて気づきました。異文化だけでなく、自国の文化に対する興味や理解を深め、自分に自信をつけさせます。この事業に参加した生徒全員も出発した時よりも明るく、自信を持って帰国したことを僕は強く感じました。お互いの文化を体験することで生まれた思い出と絆を黒潮の生徒もフェアフィールドの生徒も一生持ち続けるでしょう。

今月の使える! 英語

スィート アス
Sweet as!

今月の英語はニュージーランドのスラング! 「Sweet as!」は「いいね!」や「かっこいい!」また「ありがとう」といういろんな意味で使えるとても便利な言葉です。使ってみてね。



フェアフィールド中学校で披露したソーラン節